

社会学の研究・教育における文献データベースの利用についてのアンケート

結果の概要

日本社会学会データベース委員会

1 調査の概要

調査期間

- 2014年8月29日から9月30日 第1次回答期間
- 9月24日 延期(10月10日まで)のお知らせ兼督促メール
- 最終締切 11月11日

方法

オンラインアンケート・プラットフォームSurveyMonkeyによるウェブ調査。日本社会学会会員にメールおよびニュースレターによってURLつきで回答依頼。

有効回答数 326

2 社会学文献情報データベースおよびその他のデータベースの利用状況および登録状況

2.1 各データベースの研究利用頻度

CiNii Articles		
	度数	%
1 この1年間には使ったことがない	19	6.4
2 1-4 日	20	6.7
3 5-10 日	38	12.7
4 10-49 日	103	34.4
5 50 日以上	119	39.8
計	299	100

CiNii Books		
	度数	%
1 この1年間には使ったことがない	86	29.9
2 1-4 日	38	13.2
3 5-10 日	59	20.5
4 10-49 日	67	23.3
5 50 日以上	38	13.2
計	288	100

J-Stage

	度数	%
1 この1年間には使ったことがない	110	39
2 1-4 日	37	13.1
3 5-10 日	45	16
4 10-49 日	58	20.6
5 50 日以上	32	11.3
計	282	100

社会学文献情報 DB

	度数	%
1 この1年間には使ったことがない	139	48.3
2 1-4 日	50	17.4
3 5-10 日	56	19.4
4 10-49 日	29	10.1
5 50 日以上	14	4.9
計	288	100

国立国会図書館サーチ

	度数	%
1 この1年間には使ったことがない	68	23.2
2 1-4 日	61	20.8
3 5-10 日	64	21.8
4 10-49 日	72	24.6
5 50 日以上	28	9.6
計	293	100

所属大学 OPAC

	度数	%
1 この1年間には使ったことがない	14	4.9
2 1-4 日	24	8.3
3 5-10 日	33	11.5
4 10-49 日	98	34
5 50 日以上	119	41.3
計	288	100

社会学文献情報データベース(以下社会学DB)をこの1年使ったことがない回答者がおよそ半数に上る一方で、CiNii Articlesを使ったことがない人は6.4%にとどまる。逆にこの1年間に50日以上使っている回答者は、社会学DBについては4.9%にとどまる一方で、CiNii Articlesではおよそ4割に上る。

2.2 各データベースの教育利用頻度

各データベースを学生にこの1年間に勧めた頻度(定期的に研究・論文作成指導する社会学分野学部生数が1人以上の回答者)

CiNii Articles

	度数	%
1 まったく薦めなかった	13	6.8
2 1度は薦めた	26	13.7
3 ときどき薦めた	58	30.5
4 頻繁に薦めた	93	48.9
計	190	100

CiNii Books

	度数	%
1 まったく薦めなかった	72	39.6
2 1度は薦めた	33	18.1
3 ときどき薦めた	55	30.2
4 頻繁に薦めた	22	12.1
計	182	100

J-Stage

	度数	%
1 まったく薦めなかった	99	54.7
2 1度は薦めた	31	17.1
3 ときどき薦めた	36	19.9
4 頻繁に薦めた	15	8.3
計	181	100

社会学文献情報 DB

	度数	%
1 まったく薦めなかった	87	47.8
2 1度は薦めた	42	23.1
3 ときどき薦めた	43	23.6
4 頻繁に薦めた	10	5.5
計	182	100

国立国会図書館サーチ

	度数	%
1 まったく薦めなかった	47	25.7
2 1度は薦めた	47	25.7
3 ときどき薦めた	65	35.5
4 頻繁に薦めた	24	13.1
計	183	100

所属大学 OPAC

	度数	%
1 まったく薦めなかった	17	9
2 1度は薦めた	29	15.3
3 ときどき薦めた	55	29.1
4 頻繁に薦めた	88	46.6
計	189	100

社会学文献情報データベース(以下社会学DB)をこの1年まったく進めなかった回答者がおよそ半数に上る一方で、CiNii Articlesを使ったことがない人は6.8%にとどまる。逆にこの1年間に頻繁に薦めた回答者は、社会学DBについては5.5%にとどまる一方で、CiNii Articlesでは半数近くに上る。

2.3 その他によく利用したデータベース(自由記述)

選択肢に上げたもの以外でよく利用したデータベースとして名称が記述されたはものについて、そのケース数を、自身の研究、学生の指導(教育)それぞれについて表にまとめた。

その他よく利用したデータベース(自由記述)

	研究	教育
Amazon	7	3
Digital Library	1	0
DiGRA	1	0
Ebios	1	0
EBSCO	8	3
EBSCO Academic primer	2	0
ebscohost	2	0
e-journal database	1	1
endnote	1	0
Gallica	1	1
G-search	1	0
J-dream	1	0
JILPT 論文データベース	1	0
JSTOR	10	5
KISS(韓国語論文検索システム)	2	0
KULINE	1	1
Link	1	0
Magazine Plus	2	2

medline	2	0
mendeley	0	1
ProQuest	1	0
Pubmed	2	1
researchmap	1	1
RISS(韓国語論文検索システム)	1	0
Sage Journals Free Trials	1	0
Sage Journals Online	0	1
SciVerse ScienceDirect	2	1
Scopus	1	1
Sociological Abstracts	2	2
Web of Science	6	2
エルゼビア	1	0
ざっさく(雑誌記事索引)	2	1
その他海外 DB	1	0
ダイヤ高齢研究財団社会老年学データベース	1	0
メディカルオンライン	1	1
医中誌 WEB	6	4
一般的な検索エンジン	2	0
家計経済研究所	1	0
科学研究費研究課題データベース	1	0
官公庁の統計データベース	1	1
丸善ネット検索	1	0
近代デジタルライブラリー	1	0
所属大学の電子ジャーナル	1	1
所属大学以外のOPAC	4	0
新聞記事検索	2	4
清華大学データベース	1	0
全国紙データベース	1	0
大原デジタルライブラリー	1	1
大宅文庫データベース	1	2
第一生命研究所	1	0
東京都立図書館横断検索	1	2
日本アフリカ学会	1	0

2.4 登録状況

q20_1 -- Q20.DB 登録頻度: 社会学 DB

	度数	%
1 毎年	37	13.2
2 2-3 年に 1 回程度	57	20.4
3 4-5 年に 1 回	29	10.4
4 まったくしていない	157	56.1
計	280	100

q20_2 -- Q20.DB 登録頻度: 他学会業績リスト

	度数	%
1 毎年	29	10.7
2 2-3 年に 1 回程度	32	11.8
3 4-5 年に 1 回	21	7.7
4 まったくしていない	190	69.9
計	272	100

q20_3 -- Q20.DB 登録頻度: ReaD-Researchmap

	度数	%
1 毎年	98	35.9
2 2-3 年に 1 回程度	41	15
3 4-5 年に 1 回	18	6.6
4 まったくしていない	116	42.5
計	273	100

q20_4 -- Q20.DB 登録頻度: 所属大学リポジトリ

	度数	%
1 毎年	122	44.9
2 2-3 年に 1 回程度	36	13.2
3 4-5 年に 1 回	9	3.3
4 まったくしていない	105	38.6
計	272	100

q20_5 -- Q20.DB 登録頻度: 所属大学業績 DB

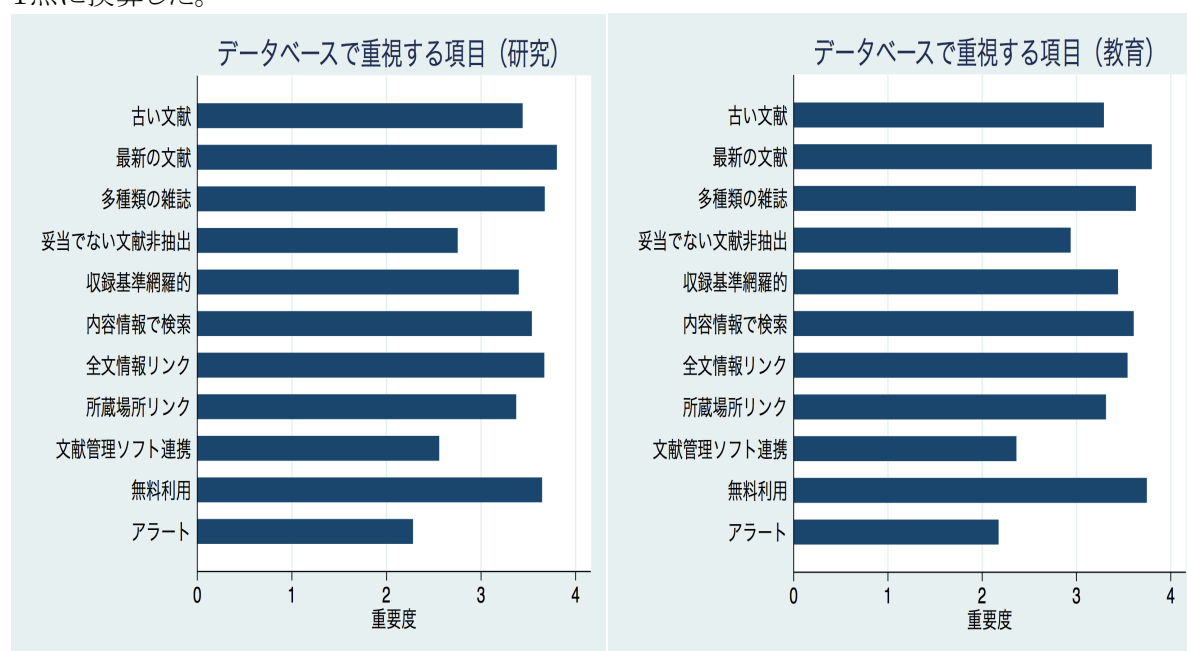
	度数	%
1 毎年	138	50.7
2 2-3 年に 1 回程度	28	10.3
3 4-5 年に 1 回	11	4
4 まったくしていない	95	34.9
計	272	100

社会学DBを含む個別学会の登録頻度は低く、所属大学の業績登録は頻度が高い。

3 データベース検索機能を利用するうえで重視する項目

問9「あなたがご自身の研究で文献データベースの検索機能を利用するうえで、次の項目はそれぞれの程度重要ですか?」および問18「文献データベースの検索機能の利用を学生に薦めるうえで、次の項目はそれぞれどの程度重要ですか?」という問に対する、各項目の回答を得点化した平均値を比較したものが下のグラフである。

「とても重要」、「ある程度重要」、「あまり重要でない」、「重要でない」を、それぞれ4点、3点、2点、1点に換算した。



研究においても教育においても、「最新の文献が収録されていること」および「無料で利用できること」が最も重視されている。文献管理ソフトとの連携や新着情報のアラートについては、重要度は高くない。「研究上妥当でない文献が抽出されないこと」は、学生に勧める上では、自身の研究の場合と比べてやや重要度が高くなる。

4 今後のデータベース運用の方向性についての自由記述の概要

4.1 自由記述の分類

ここでは、今後のデータベース運用の方向性についての自由記述を整理する。設問全文は以下の通りである。

まず初めに、日本社会学会における今後のデータベース運用の方向性について、皆さんの率直な考えをうかがいます。現行の社会学文献情報データベースの長所・短所などを踏まえて、継続の必要性の有無や、求められる機能などを、自由に記述してください。

有効回答数 179

分析方法

質的データ分析ソフトNvivo 10を使用してコーディングしたうえで、

(1)明確に継続が必要であるとする意見と不要であるとする意見を取り出す。

(2)どちらにも当てはまらないケースについて細分類作成。

(3)それぞれの意見について理由に関する記述の有無を判断。

(4)継続の要否ごと、その他の設問への回答を比較

※さらに、本報告書末尾に、補足資料としてKHcoderを用いて自由記述に現れた語の共起ネットワークを分析した結果を掲載している。

【「継続必要」と見なした回答】

継続が必要、お願いしたい、大切、といった内容。

「現在のままでもいい」、「必要性はある」「非常に役立っています。廃止になる理由がよくわかりません。」「大事な作業だと考えます。」は含めた。

特に問題を感じない、有用である 応用に期待するといった表現は、必ずしも継続希望を表明しているとは見なせないため、含めなかった。社会学文献情報データベースではなく「データベース」一般が必要だという意見だと判断されるものも除いた。

【「継続不要」と見なした回答】

必要がない、意味がない、必要性が薄い、必要性が低くなっているなど。「使っていない」「使ったことがない」は含めていない。

4.2 継続に対する意見と理由の記述

明確に継続が必要、あるいは望むという内容の回答をした人は45人。自由回答記述者179人の中の25パーセント。継続不要という意見の方が若干少ないが、後に見るように、これ以外にも「使ったことがない」「使っていない」や否定的な回答がある。

	理由記述あり	理由記述なし	計
継続必要	21	24	45
%	46.7	53.3	100
継続不要	34	5	39
%	87.2	12.8	100

継続が必要との意見を持つ人と、不要との意見を持つ人について、理由の記述の有無を確認すると、継続が必要であるとする人の方が理由の記述は少ない。内容は、以下の一覧に見るように、社会学に特化していること、論文以外のものが検索できることの意義があげられている。不要である理

由としては、CiNiiなどの他の文献データベースの充実、自己申告制による網羅性の問題、入力のコストなどがあげられている。

継続必要とする理由(自由記述全体の中の理由にあたる箇所を抜粋)

- 色々な方の文献検索ができると、日々の研究に役立てることができるので
- 文献の HP 上公開やダウンロード機能は大変重宝します。ありがたいです。
- 文献探索に一定程度役立っているのも、今後も継続するべきだと思います。
- しかし、社会学の文献に特化したサービスは他にあまりないはずなので
- 必要不可欠なことだと思いますので
- 身近なところで、閲覧できるし、
- 以下のような利点があると考えており、継続できるのであれば継続していただいた方が助かります。
・著書と論文を同時に検索できる点
・報告書等も入力されている場合がある点 (他のデータベースでカバーされていないものが入力されている可能性がある点)
・社会学に絞られている分、学生に使わせやすい点
- 日本語文献については CiNii Articles を使うことが増えてきた。社会学文献情報データベースは継続が望ましいが、会員からの自発的な登録に依存する文献(おもに査読なしの雑誌・書籍など)がの扱いについて判断が必要な時期にさしかかっている。日本の社会学の現状を考えると、査読なしの雑誌・書籍などがデータベースに含まれていることが望ましいが、自発的な登録に依存しているため網羅的な文献データベースになっていない。そのため、社会学文献情報データベースが中途半端なものになっているように感じる。
- 社会学の分野でどのような研究蓄積があるかを調べるのに重宝しております。
- Cinii ではひっかからない文献もあるように感じているので、
- 卒論を学生に書かせる際、先行研究を探すために使わせていますので、
- 社会学部ではないので、学生の関心とマッチしたものが必ず見つかるとは限らないのですが、検索をしてみるとということの訓練的意味を含めて、授業に役立っていると思います。
- 重要なデータベースなので、
- 社会学に特化したデータベースがあるのはありがたいです。継続して頂きたいと思います。特に、大学院生の間は有料のデータベースは使いにくい環境の人も居ると思うので貴重です。
- 汎用データベース(CiNii Articles)には収録されていない情報が多く、有用であるので
- 学会員の自己申告による論文目録であるため、CiNii などの他のデータベースにはない、優れた点がある。それは、キーワードや分類方法に専門的な知識が反映されていることである。
- 研究・教育における文献リサーチの手段として有意義であり
- 社会学の初学者にとっても、この DB から得られる論文や文献が研究の具体的な手法を知ることがかりとなる点、また、近隣の領域を研究している方がわかるという点でも
- 継続していただければ、ありがたいです。社会学という括りで検索できるのは、特に学生指導上、便利です。
- 著書、編集本、翻訳、論文など、パートごとに、社会学会会員の文献がほぼ掲載されているので、非常に役立っています。
- 会員による文献情報は日本の社会学の現状を示すものであり、今後も継続していくことが必要でしょう。
- 利便性はあると思いますので、

継続不要とする理由(自由記述全体の中の理由にあたる箇所を抜粋)

- 短所は、(1) 社会学分野の日本語文献すべてが網羅されているわけではない、(2) 入力の負担が大きいという2点であり、(2)が(1)の要因ともなっていると考えられる。(2)を解決するには、Researchmap からの自動データ変換など、入力の負担を抜本的に軽減する策が必要であり、それが実現されなければ、継続のメリットよりもデメリットが上回るのではないかと判断せざるを得ない。

- 入力作業の担当者の負担が大きいので
- Cinii Articles から読むことができる論文が増えたこともあいまって、日本語文献検索はどうしても Cinii Articles 中心です。社会学文献情報データベースは最近ほとんど使っていません。社会学文献情報データベースは自己申告でデータを集めているので、重要な論文でも入っていないことがありますし。コストとベネフィットの観点から
- 外部のアーカイブが充実してきたので
- 現在さまざまなデータベースが発達している
- 社会学会というまとまりで、整理しても、その作業に比して、利用の意味は低い。専門領域それぞれに、そして社会学という枠を超えて、DB というのはあるものであり
- CINI があれば十分だと思いますが
- CiNii が整備されている今日
- cinii があるので、論文に関しては必要ない。書籍情報(章の内容)は、重要だが、他の媒体もあるので、特に必要はない。
- 文献登録をしていない人が多いので
- 作業費用、アクセスのむずかしさ、甲申等の煩雑さ、他の様々な検索エンジンの存在を考えると、必要性はうすいのかなと思います。
- 現在, cinii で十分間に合うため、
- あまり利用したことがないので
- 研究分野的に、複数分野を横断的に検索できる他のデータベースを使用することが多いので。
- より大きな規模の予算で、より大きなデータベースが整備されている現在
- 社会学が独自に文献情報データベースをもっている意味は大きい。しかしながら、代替できる情報検索システムがすでにある場合、あえて管理・運用の手間をかける必要があるのか疑問である。
- CiNii などのデータベースが整備されてきている中で、多大な収集・管理コストをかけて
- 研究業績のデータベースが各種整ってきている現状では、そこに費やされる労力(管理者、利用者)を考えると
- 他の学術データベースが充実し、利便性も高まったことから、代替可能であると考え からです。
- 普段から CiNii しか使わない。
- 業績については、所属機関などでデータベースが既に作られ、公開もされているので、何度も似たような入力を繰り返す手間だけを考えても
- Cinii や Jstage などがあるため
- 費用もかかるでしょうし、NII で他の情報とともに検索できた方が便利です。
- インターネット上のデータベースがなかった時代には貴重な情報源だったが、現在はネット検索でかなりのことがわかるようになった。また、多くの学術雑誌や紀要がオンライン公開もされているので、必要性は低くなっていると思う。継続する以上は、独自性がほしい。入力する立場からすれば、毎年1回で済ませたいが、勤務校の分から公的なデータベースにリンクされているので、わざわざ学会のデータベースに入力する気にならない。
- その他の検索システムを利用しているため
- しかし、現実には作成には多くの時間とエネルギーがかかる。現在は他のさまざまな DB で代替できるようになってきたし、社会学会の分類基準がなくとも検索にはほとんど問題がないため
- 学術論文、書籍の検索は他サービスが提供しているので現行のような形態での継続の必要性はないと思います。
- 文献検索システムは既に発達しており
- 現在は、他のデータベースを利用するので、社会学会のデータベースは全く利用していない。
- 利用したことがないので
- データベースの維持・保守に多大の労力を割いておられることは存じていますが、それだけにコスト・パフォーマンスが悪いかと思います。CiNii や J-Stage などでは本文が読めるものもあるので、

私自身もまた学生や院生もそちらを利用することが多いかと思います。

- 論文の電子化などが進む中で、データベース化に傾注している学会の労力の配分は見直してよいように思います。
- 各自の HP のような形での公表も増加しているという意味では
- データベースの更新がうまくいかないようなので
- 独自に運用する理由がなければ、より検索結果として反映されやすいデータベースと統合してもよいのではないかと思います。
- Cinii や MagazinePlus などの総合文献データベースがある以上
- 率直に言って、使い勝手も他のデータベースに比べると悪いので、継続の必要性はないのではないのでしょうか。ただし、古い文献に関しては他のデータベースでは出てこないような情報もありますので、メジャーな大規模データベースにぜひ情報を提供してほしいと思います。
- CiNii の方が確実なので

4.3 継続に対する意見以外の記述

さらに、継続の必要・不必要が明記されていない回答を以下のように分類した。

1. 肯定的または長所のみ記述 (否定的、短所の記述なし)
2. 両方記述
3. 使ったことがない・使っていない (肯定・長所・否定・短所記述なし)
4. 否定的または短所のみ記述 (肯定的、長所の記述なし)
5. 改善提案など (1-4の記述なし)
6. 特になし

また、いずれの意見にも改善提案が含まれている場合があるので、改善提案の有無は上記のカテゴリーと別の軸とし、クロス表の形で示す。

継続必要・不要以外の意見

	改善提案の有無		
	あり	なし	計
肯定的または長所のみ記述	4	8	12
	33.3	66.7	100
両方記述	3	4	7
	42.9	57.1	100
使ったことがない・使っていない	5	19	24
	20.8	79.2	100
否定的または短所のみ記述	11	10	21
	52.4	47.6	100
改善策など	27	1	28
	96.4	3.6	100
特になし	0	3	3
	0	100	100
Total	50	45	95
	52.63	47.37	100

4.4 継続に関する意見と利用頻度

Q7.この1年間の研究利用頻度

社会学文献 DB	継続必要	継続不要	計
利用なし	8	25	33
	21.1	69.4	44.6
1-4 日	10	7	17
	26.3	19.4	23.0
5-10 日	8	3	11
	21.1	8.3	14.9
10-49 日	8	1	9
	21.1	2.8	12.2
50 日以上	4	0	4
	10.5	0.0	5.4
計	38	36	74
	100	100	100

CiNii Articles	継続必要	継続不要	計
利用なし	5	1	6
	12.8	2.6	7.8
1-4 日	1	2	3
	2.6	5.3	3.9
5-10 日	10	4	14
	25.6	10.5	18.2
10-49 日	8	13	21
	20.5	34.2	27.3
50 日以上	15	18	33
	38.5	47.4	42.9
計	39	38	77
	100	100	100

Q8.この5年間の研究利用変化

社会学 DB	継続必要	継続不要	計
大いに増えた	3	0	3
	8.1	0.0	4.2
少し増えた	6	0	6
	16.2	0.0	8.3
変わらない	16	6	22
	43.2	17.1	30.6
少し減った	7	3	10
	18.9	8.6	13.9
大いに減った	1	14	15
	2.7	40.0	20.8
使用したことがない	4	12	16
	10.8	34.3	22.2
計	37	35	72
	100	100	100

Q16.この1年間の学生への推薦頻度

社会学 DB	継続必要	継続不要	計
まったく薦めなかった	8	15	23
	29.6	57.7	43.4
1度は薦めた	5	6	11
	18.5	23.1	20.8
ときどき薦めた	10	3	13
	37.0	11.5	24.5
頻繁に薦めた	4	2	6
	14.8	7.7	11.3
計	27	26	53
	100	100	100

Q17.この1年間の学生への推薦頻度の変化

社会学 DB	継続必要	継続不要	計
少し増えた	4	1	5
	14.8	3.9	9.4
変わらない	18	9	27
	66.7	34.6	50.9
少し減った	0	2	2
	0	7.69	3.77
大いに減った	2	2	4
	7.4	7.7	7.6
薦めたことがない	3	12	15
	11.1	46.2	28.3
計	27	26	53
	100	100	100

継続が必要と考える人の方が社会学DBの利用度は高いが、使ったことのない人も2割ほどいる。継続が不要と考える人には、現在は利用していない人が多いものの、研究での利用について大いに減ったという回答者が4割近くいることから、過去には頻繁に用いていた人たちが含まれていると考えられる。

4.5 継続に関する意見と重視する項目

ここでは、継続が必要とする意見を持つ回答者と不要との意見を持つ回答者の間で、データベース検索に関して重要と考える項目に差があるかどうかを確認する。

継続に関する意見別 重視する項目(研究)

	継続必要 (N=36)	継続不要 (N=35)
古い文献	3.42	3.45
最新の文献	3.71	3.84
多種類の雑誌	3.55	3.71
妥当でない文献非抽出	2.76	2.58
収録基準網羅的	3.45	3.42
内容情報で検索	3.45	3.46
全文情報リンク	3.53	3.58
所蔵場所リンク	3.26	3.25
文献管理ソフト連携	2.22	2.46
無料利用	3.61	3.41
アラート	2.19	2.31

継続に関する意見別 重視する項目(教育)

	継続必要 (N=29)	継続不要 (N=29)
古い文献	3.17	3.41
最新の文献	3.76	3.9
多種類の雑誌	3.69	3.69
妥当でない文献非抽出	2.97	2.89
収録基準網羅的	3.45	3.59
内容情報で検索	3.62	3.62
全文情報リンク	3.45	3.34
所蔵場所リンク	3.24	3.07
文献管理ソフト連携	2.17	2.48
無料利用	3.69	3.59
アラート	2.14	2.21

大きな差はないが、継続不要という回答をした人は必要と回答した人と比較して、「最新の文献」「文献管理ソフト連携」を重視し、「妥当でない文献非抽出」や「無料利用」を重視しない傾向にある。

4.6 継続に関する意見と登録頻度

Q20.DB 登録頻度			
社会学 DB	継続必要	継続不要	計
毎年	8	4	12
	21.6	10.8	16.2
2-3 年に 1 回程度	14	8	22
	37.8	21.6	29.7
4-5 年に 1 回	2	6	8
	5.4	16.2	10.8
まったくしていない	13	19	32
	35.1	51.4	43.2
計	37	37	74
	100	100	100

継続が必要と考える人は、継続不要という意見の人たちよりも毎年文献登録をするケースが多いものの、登録をまったくしていない人も35パーセントいる。

自由回答ではどのような語が多く出現していたか、またどの語とどの語とが結びついてきたかを示すために、KH Coder を用いて共起ネットワークを作成した（樋口 2014）。作成には 5 回以上出現していた語 98 種類を用い、90 ペアの共起関係を edge として描画した。

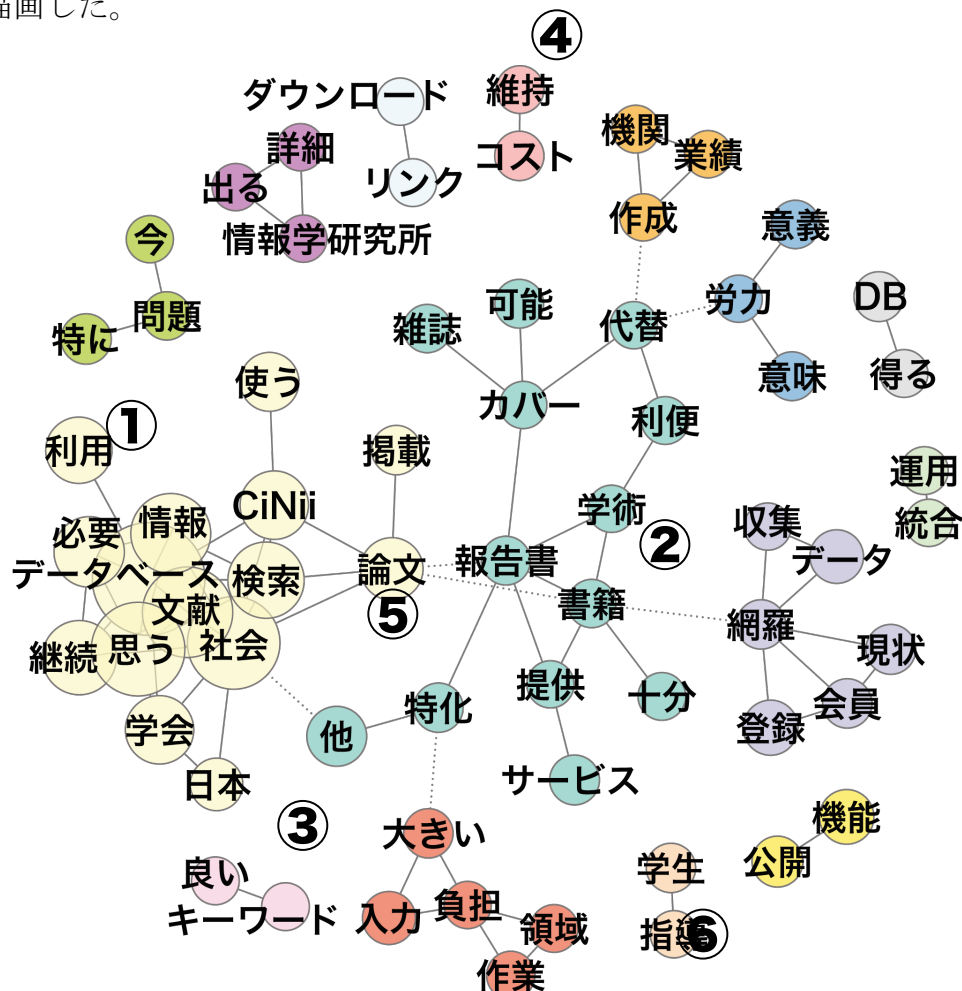


図 1 自由回答項目の共起ネットワーク

まず①の部分には、「文献」「情報」「データベース」「検索」のように、多くの自由回答に共通してあらわれる頻出語が集まっている。「CiNii」がこの部分にあり、CiNii の登場と関連付けつつ学会のデータベースについて考えた会員が多かったようである。

社会学文献情報データベースに関するネガティブな側面としては、②「会員」に「データ」「登録」を依頼しているために「データ」「収集」が「網羅」的でないこと、また③「入力」の「負担」が「大きい」ことが挙げられている。加えて④「維持」のための「コスト」や「労力」などにも言及がある。

一方でポジティブな側面としては、⑤社会学に「特化」されていて「報告書」「書籍」も検索できること、⑥「学生」「指導」に役立つこと挙げられている。

文献

樋口耕一，2014，『社会調査のための計量テキスト分析——内容分析の継承と発展を

目指して』ナカニシヤ出版.